

## IPA賞対象部門及び受賞者

### 1. ソフトウェア部門

ソフトウェアの分野（オープンソースソフトウェアの分野を除く）において、機構の支援を受けて、独創性及び社会的波及効果が高い等、優れた開発成果をあげた個人又はグループ若しくは機構の支援を受けて開発した成果を早期に事業化した個人又はグループ。

### 2. オープンソースソフトウェア部門

オープンソースソフトウェアの分野において、機構の支援を受けて開発した成果が優れており、社会的波及効果が高い等、優れた開発成果をあげた個人又はグループ若しくは機構の事業を通じて、オープンソースソフトウェアの整備及び普及に貢献した個人又はグループ。

### 3. ソフトウェアエンジニアリング部門

機構の事業を通じて、ソフトウェアを短納期及び低コストで開発するための評価及び改善手法の開発、標準化及び普及等の実施により、ソフトウェア開発手法の向上に貢献した個人又はグループ。

### 4. 情報セキュリティ部門

機構の事業を通じて、又は機構と協力・連携して、ウィルス・不正アクセス対策、脆弱性対策、暗号技術又はセキュリティ評価・認証その他の情報セキュリティに関する開発、標準化及び普及等の実施により、情報システムの安全性の向上に貢献した個人又はグループ。

### 5. 人材育成部門

機構の事業を通じて、又は協力・連携して、ITスキル標準の整備及び普及又は中小企業及び地域のIT化の支援又は情報処理技術者試験の運営又は天才プログラマー／スーパークリエイターの指導等の実施により、IT分野の人材育成の促進に貢献した個人又はグループ。

### 6. 事業化支援部門

機構が過去に支援した企業の事業化支援に貢献した個人又はグループ。

### 7. IT化促進部門

機構のIT化促進等の事業に貢献した個人又はグループ（上記1.から6.までに該当するものを除く）。

## 1. ソフトウェア部門

### (1) 受賞者

こんどう よしあき  
**根東 義明** (国立大学法人 東北大学大学院 医学系研究科 医学情報学分野 教授)



### (2) 受賞者の功績

情報化の遅れている医療分野の課題を提起するとともに、その解の一つである「医学医療知識共有化システム」の開発を開発統括責任者として、開発者に対し精力的に指導してきた。

2004年度はIPA 情報技術動向研究会に委員として参加し、医療分野の抱えるIT分野の課題を積極的に提起した。また、2005年度はIPA 次世代ソフトウェア開発事業<sup>2</sup>における、IPA初の開発統括責任者として精力的に開発の指示・運営管理を行った。2006年度の完成後は、次のフェーズであるマーケティングへの展開に向けて尽力している。また、東北大学病院で小児科医療の診療現場に務めるとともに、同病院メディカルITセンター部長を兼務して医療の情報化に積極的に取り組み、同病院の医療システム構築・運用にも中心的な役割を果たしている。

### (3) 選定理由

東北大学病院での医療現場及び医療情報化の知見を十二分に発揮し、医療現場の問題点、要望を的確に「医学医療知識共有化システム」の開発に反映させ、より実用性の高いシステム構築に貢献した。

また、東邦大学医学部附属佐倉病院をはじめとする医療機関において、本システムの実証実験の実施を推進し、現場の医師から本システムに対し高い評価を受けている。これらの点が高く評価できるため選定された。

---

<sup>2</sup> 次世代ソフトウェア開発事業：次世代を担う革新的なソフトウェア開発を支援するもの。民間ではリスクの高い次世代ソフトウェア開発を支援する。

## 2. オープンソースソフトウェア部門 (その1)

### (1) 受賞者

#### OSS 技術開発・評価コンソーシアム

##### 【代表】

ふくおか ひろし  
**福岡 博** (株式会社日立製作所)

##### 【参加メンバー】

いししい たつお (SRA OSS, Inc. 日本支社)  
**石井 達夫**  
 いなき こういちろう (新日鉄ソリューションズ株式会社)  
**稲木 宏一郎**  
 かねこ たかゆき (NTTデータ先端技術株式会社)  
**金子 崇之**  
 ごとう ひろむ (日本ヒューレット・パカード株式会社)  
**後藤 宏**  
 すがはら こうじ (住商情報システム株式会社)  
**菅原 孝二**  
 すずき けいいちろう (日本電気株式会社)  
**鈴木 慶一郎**  
 たかはし こうし (ターボリナックス株式会社)  
**高橋 功至**  
 たかはし ひでき (ユニアデックス株式会社)  
**高橋 秀樹**  
 てらだ ゆういち (株式会社野村総合研究所)  
**寺田 雄一**  
 にしだ しげお (ミラクル・リナックス株式会社)  
**西田 茂雄**  
 みやち としあき (サイオステクノロジー株式会社)  
**宮地 敏明**  
 よしだ ゆきお (株式会社日立システムアンドサービス)  
**吉田 行男**



(一段目 福岡、  
 二段目左より 石井、稲木、金子、  
 三段目左より 後藤、菅原、鈴木、  
 四段目左より 高橋(功)、高橋(秀)、寺田、  
 五段目左より 西田、宮地、吉田 の各氏)

### (2) 受賞者の功績

同グループは、OSS のさらなる普及拡大のため、OSS の適用領域の明確化と、障害解析の迅速化を目的として、それまでベンダ毎に実施していた OSS の性能・信頼性評価、評価手順書、及び障害情報解析ツールの開発、並びにノウハウの整備を 2004 年度に開始した。その後、評価情報の拡充、最新のハードウェアによる評価環境、評価ツール、評価対象ソフトを組み合わせる等、OSS テストツールの整備を続け、これらの成果を集大成し、2007 年 2 月 7 日に OSS iPedia から OSS テストツール 2007 の名称で公開した。

なお、2007 年 5 月末現在で、OSS テストツール 2007 は、2006 年 5 月 15 日公開以来、累計 112 万件(就業日 1 日当たり平均 4,400 件)のダウンロード実績がある。

### (3) 選定理由

同グループは、OSS の性能及び信頼性に関する評価をテーマとしたプロジェクトを 2004 年度から実施し、OSS ユーザや Sler (System Integrator) のための性能・信頼性評価情報を整備して、OSS テストツールを OSS iPedia で公開した。

OSS テストツールはダウンロード実績に見られるように、OSS ユーザ、Sler 及び開発コミュニティ等から多大な注目を集めており、高い評価を得て活用されている。このように、OSS の普及に多大な貢献を行った点が高く評価できるため選定された。

## 2. オープンソースソフトウェア部門（その2）

### (1) 受賞者

えびはら しんいち  
**海老原 慎一**（栃木県二宮町役場 総務企画課 情報管理室 情報管理室長）



### (2) 受賞者の功績

二宮町は、2005年度の「自治体導入実証事業」を活用して、庁舎（総務企画課等10課）及び出先機関（公民館、保育所等9ヶ所）に設置されている情報系端末139台を全てOSSデスクトップに置き換えた。この結果、第一に従来の環境（OSとOffice製品）と同等の事務作業（住民記録、税処理等基幹系システムに接続した固有業務は除く）が行えることが実証された。第二に従来の環境に比較して費用対効果が高いこと（導入台数分のOSSデスクトップの費用は、従来の環境に比べてほぼ半分、運用管理ソフトを導入しても2割減）が実証された。

また、導入実証を実施するに当たって、同氏は町役場の三役、町議会、町役場内の関係課、保育所等の出先機関を説得して了解を得るなど調整を十分に行ったほか、イントラ上で職員向けFAQを充実させるなど、地道な努力を行った。

さらに、2006年度の「自治体導入実証事業」にも応募し、広域行政を形成する近隣1市4町1行政事務組合を説得して、自治体の広域連携という新たな課題に取り組んだ。

### (3) 選定理由

「自治体導入実証事業」は、2005年度から3年計画で実施しており、OSSデスクトップを組織内に大規模に導入する際に、日々の文書・連絡業務、Web環境での情報共有、基幹業務システムとの接続等における具体的な課題を洗い出して、基盤技術開発、標準化の促進等のOSS活用基盤の整備に結びつけている。

同氏は、職員の情報系パソコンの全数をOSSデスクトップに置き換えるという大胆な試みを実現し、OSSデスクトップが十分に現場で利用できること、費用対効果も高いことを実証した。また、他の自治体からの問い合わせ、マスコミ等の取材、OSS関連セミナーの講師派遣にも積極的に応じている。このように、一自治体内の活動にとどまらず、広く他の自治体への普及に貢献しており、OSSの普及促進に果たした功績は高く評価できるため選定された。

### 3. ソフトウェアエンジニアリング部門

#### (1) 受賞者

むらかみ のりとし  
**村上 憲稔** (富士通株式会社 プロフェッショナルサポートビジネスグループ エグゼクティブアーキテクト (LCM、品質担当) ソリューションビジネスサポートグループ エグゼクティブアーキテクト (知的財産担当))



#### (2) 受賞者の功績

経済産業省「エンタプライズ系ソフトウェア開発力強化推進タスクフォース」の「開発プロセス共有化部会」主査として、強力なリーダーシップのもと、部会の基本理念の確立、部会運営の方向性、技術的な主導など、多くの面で、欠くべからざる役割を果たした。この結果、同部会では、ソフトウェア開発におけるユーザとベンダのあるべき役割分担を定義するという基本理念のもと、具体的なベストプラクティスを収集できた。

特に、2005年4月に発行した「経営者が参画する要求品質の確保～超上流から攻めるIT化の勘どころ～」及び2006年5月に発行した「経営者が参画する要求品質の確保～超上流から攻めるIT化の勘どころ～第2版 解説 CD-ROM 付」の発行部数は、合計28,000冊にのぼっており、情報サービス業界の高い関心を集めている。

また、現在は「情報システムの信頼性向上に関するガイドライン」との対応を図るため、「共通フレーム98」を改訂し、「共通フレーム2007(仮称)」を構築すべく、積極的に活動中である。

#### (3) 選定理由

同氏は、部会のリーダーとして、また、ソフトウェア・エンジニアリング・センター (SEC) 運営の中心メンバーとして、強力なリーダーシップを発揮し、草創期にあったSECの運営の礎を築いた。

また、「超上流」<sup>3</sup>、「17ヶ条」<sup>3</sup>、「SLCP」<sup>4</sup>など、注目を引くキーワードとコンセプトを案出し、SEC成果の普及に弾みをつけた。同氏の出身企業である富士通株式会社、グループ企業、及びそのユーザー会、パートナーなどに対して、これらの成果の普及活動を先頭に立って実施した。これらの点が高く評価できるため選定された。

<sup>3</sup> 17ヶ条:「17ヶ条」とは、経験豊富なITシステムのユーザとベンダの綿密な意見交換から抽出されたエッセンス。

<sup>4</sup> SLCP:「SLCP」とは、Software Life Cycle Processの略で、ソフトウェアの開発から、運用、保守に至るまでのライフサイクルを可視化し、世界が同じことばで語れるもの。(ISO/IEC 12207 国際標準)

## 4. 情報セキュリティ部門

### (1) 受賞者

ふくもり だいき  
**福森 大喜** (株式会社セキュアスカイ・テクノロジー CTO)



### (2) 受賞者の功績

情報セキュリティ早期警戒パートナーシップ(脆弱性関連情報流通に係る官民連携の枠組み)に対して、ソフトウェア製品に関する脆弱性関連情報を、2004年7月の脆弱性関連情報取扱い業務開始後、2007年3月末までに合計120件を届け出た。この120件は、最多件数であるのみならず、全体の届出件数の26%を占めている。

なお、届けられたソフトウェア製品に関する脆弱性情報のうちの41件は、2007年3月末までに既に対応・公開されている。

### (3) 選定理由

2004年7月の脆弱性関連情報取扱い業務開始後、ソフトウェア製品に関する脆弱性関連情報を120件届け出た。この件数は、ソフトウェア製品に関する脆弱性関連情報の届出としては最多であり、情報セキュリティ早期警戒パートナーシップの活動に多大な貢献をした。その内容についても、いずれも我が国で広範に利用されているソフトウェア製品の脆弱性関連情報が多い。これらの点が高く評価できるため選定された。

## 5 . 人材育成部門

### (1) 受賞者

すぎの たかし  
**杉野 隆** ( 国土館大学情報科学センター 教授、情報処理技術者試験委員会 委員 )



### (2) 受賞者の功績

ネットワークスペシャリスト試験<sup>5</sup> ( 1994 年 )、情報セキュリティアドミニストレータ試験 ( 2001 年 )、テクニカルエンジニア ( 情報セキュリティ ) 試験 ( 2005 年 ) の創設に尽力した。

2005 年に創設した情報セキュリティ試験においては、試験の問題形式設計、出題範囲、サンプル問題の作成など、試験実装のための業務に積極的に取り組んだ。さらに、これらの成果を IPAX2005、情報セキュリティ試験に関する情報化月間での講演、雑誌や新聞の取材対応で積極的に PR する等、情報処理技術者試験センターの広報活動に貢献した。

### (3) 選定理由

1981 年から 25 年の長きにわたり情報処理技術者試験委員を務め、試験問題作成、採点、合格候補者確定の重責を担っている。この間に、ネットワークスペシャリスト試験、情報セキュリティアドミニストレータ試験、テクニカルエンジニア ( 情報セキュリティ ) 試験の 3 つもの試験創設に尽力し、応募者数万人を数える試験に発展させた。

これは、試験問題の内容と質が、社会のニーズを満たすものであったからこそであり、同氏が情報処理技術者試験委員として果たした役割は、極めて大きい。これらの点が高く評価できるため選定された。

<sup>5</sup> ネットワークスペシャリスト試験：現在のテクニカルエンジニア ( ネットワーク ) 試験に相当する。

## 6. 事業化支援部門

### (1) 受賞者

あさだ りゅうじ  
**浅田 隆治** (フューチャーアーキテクト株式会社 取締役特別顧問、社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) 副会長)



### (2) 受賞者の功績

事業資金を必要としているが、資金調達に苦しんでいる中小規模のCSAJ会員企業の相談に応じて、2004年5月から2005年9月までに累計28社に対してIPA債務保証を紹介した。そのうち、20社について、IPAの債務保証付きで金融機関借入が実現している。

さらに、2005年10月には、東京都民銀行等5金融機関及びIPAと提携して、CSAJ正会員や準会員を対象とした「ガンバレIT!融資制度」を創設し、中小IT企業の資金調達支援に努めている。「ガンバレIT!融資制度」については、創設以来、既に29件、5億7600万円のIPA債務保証付融資が実現している(2007年5月末現在)。

### (3) 選定理由

2005年10月に5金融機関と提携してIPA債務保証を組み込んだ融資制度「ガンバレIT!融資制度」の創設に尽力した。

また、同氏は、自ら率先して本融資制度を活用し、資金調達に苦しむ中小IT企業の問題解決に引き続き取り組んでいる。これらの点が高く評価できるため選定された。

## 7. IT 化促進部門

### (1) 受賞者

な かなた ひろし  
**中田 寛** (株式会社中田製作所 代表取締役社長)



### (2) 受賞者の功績

株式会社中田製作所は、アルミ素材に特化して精密部品の切削加工を行っており、「平成 16 年度 IT 経営百選」の最優秀企業に認定され、また「平成 18 年度 IT 経営百選」においても最優秀企業に認定された。

また、同氏は、中小企業 IT 経営の伝道師として、2005 年度及び 2006 年度に全国の IT 経営応援隊事業において、積極的に自社事例を紹介し、中小企業における IT 経営のモデルとして、中小企業経営者への啓発に努めている。

### (3) 選定理由

中田製作所は社員数 25 名と中小企業にも拘らず、IT 経営に積極的であり、自社の IT 経営だけではなく、中小企業のレベルアップのために積極的に伝道師としても活躍をしている。

特に IT 経営応援隊事業には、全国各地からの要請に応えて、中田寛社長自らが自社事例を紹介する等、積極的に参画している。

このように、IT 経営応援隊事業に大きく貢献していることが高く評価できるため選定された。